授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド学特論Ⅰ	2	教授	吉水清孝	1学期	火	2

◆ 講義題目　ヒンドゥー教文献講読（1）

◆ 到達目標　ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み，サンスクリット語解読の訓練を積むと共に，ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

『マハーバーラタ』は，王家の争いに端を発する大戦争を描き，そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は，昨年度に引き続き，第10巻「夜襲の巻」中盤を講読する。ここでは，夜襲を終えたアシュヴァッターマンが瀕死の百王子長兄ドゥルヨーダナのもとに還り戦果を報告し，ドゥルヨーダナが彼を祝福して息を引き取る。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい，和訳を検討し文法事項を確認する。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は，コピーで配布する。辞書としては，まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい，更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド学特論Ⅱ	2	教授	吉水清孝	2学期	火	2

◆ 講義題目　ヒンドゥー教文献講読（2）

◆ 到達目標　ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み，サンスクリット語解読の訓練を積むと共に，ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

前学期に引き続き，『マハーバーラタ』第10巻「夜襲の巻」中盤を講読する。ここでは，ここでは，五王子長兄ユディシュティラと妻ドラウパディーとが，陣地に戻り，その惨状を目にして悲嘆に暮れる。この場面は，現代にまで通じる戦争の悲惨を的確に描いている。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい，和訳を検討し文法事項を確認する。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は，コピーで配布する。辞書としては，まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい，更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド学特論Ⅲ	2	非常勤講師	藤井正人	集中(2)		

◆ 講義題目　サーマヴェーダと最初期ウパニシャッド

◆ 到達目標　古代インドの正統派祭式文献であるヴェーダは、祭官の職務に応じて四種に分かれて編纂・伝承されている。そのうち、祭場で歌われる歌詠（サーマン）を集めたものがサーマヴェーダである。サーマヴェーダの中心文献であるサンヒター(歌詞集と歌曲集)、ブラーフマナ、ウパニシャッドを取り上げ、ヴェーダ祭式歌詠の特徴とその変遷、およびそれらが最古のウパニシャッドの成立の背景となった思想史上の意義について考察する。

◆ 授業内容・目的・方法

サーマヴェーダには、多くの伝承地域をもつ有力学派であるカウトゥマ派（姉妹学派のラーナーヤニーヤ派を含む）と、南インドのタミル・ナードゥとケーララの２州のみに存続する希少学派であるジャイミニーヤ派の二学派が現存している。授業では、まず両学派のサーマヴェーダ諸文献の構成・内容・研究の現状を概観した上で、特にサンヒターとブラーフマナについて両学派の特徴と差異とを考察する。さらに、ブラーフマナおよびウパニシャッドから具体的なサーマンを扱っている箇所を選んで読解して、ヴェーダ祭式歌詠の歴史的な変化をたどるとともに、それと最初期のウパニシャッドの成立との関係を考察する。本授業は文献としてのサーマヴェーダを中心に取り上げるが、インドに現存するサーマヴェーダ歌詠伝承の実態についても現地調査に基づいて解説する。

◇ 成績評価の方法　出席とレポート

◇ 教科書・参考書　教科書は使用しない。教材を授業で配布する。

その他：サンスクリット基礎文法を習得しているか学習中であることが望ましいが、サンスクリット未修者でも十分に理解できる授業を行う予定である。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド仏教史特論Ⅰ	2	教授	桜井宗信	1学期	水	2

◆ 講義題目　チベット密教文献研究（1）

◆ 到達目標　インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに，チベット語仏典読解力を向上させる。

◆ 授業内容・目的・方法

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第３代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』（rGyud sde spyiḥi rnam gshag）の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに，「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70 %］
（○）その他（授業中に示される理解度）［ 30 %］

◇ 教科書・参考書　rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa,『Sa skya 派全書』Vol.2（東洋文庫刊）, pp.1-37

その他：「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド仏教史特論Ⅱ	2	教授	桜井宗信	2学期	水	2

◆ 講義題目　チベット密教文献研究（2）

◆ 到達目標　インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに，チベット語仏典読解力を向上させる。

◆ 授業内容・目的・方法

前セメスターに引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い，インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70 %］
（○）その他（授業中に示される理解度）［ 30 %］

◇ 教科書・参考書　rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa,『Sa skya 派全書』Vol.2（東洋文庫刊), pp.1-37

その他：「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド学研究演習Ⅰ	2	教授	吉水清孝	1学期	木	2

◆ 講義題目　インド哲学文献研究（1）

◆ 到達目標　インドの哲学思想の根本にある古代宗教書ヴェーダは祭式文献であるので，ヴェーダ祭式儀礼の概要を理解するとともに，古典サンスクリット語のもとにあるヴェーダ語の特質をも習得すること。

◆ 授業内容・目的・方法

昨年逝去した Frits Staal の大著 Agni 第 1 巻は，1975年に開催された大規模ヴェーダ祭式 Agnicayana（祭火壇設置祭）の詳細な記録である。本年度はソーマ祭中心部分の概要を理解するために，本書に収められた Agnicayana 祭終盤，最終日前日の午前から午後にかけてのソーマ献供儀礼と讃歌朗唱儀礼の部分を講読し，合わせてそこに引用された，Ṛgveda や Taittirīyasaṃhitā などのマントラ部分をも解読する。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は，コピーで配布する。辞書としては，まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい，更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド学研究演習Ⅱ	2	教授	吉水清孝	2学期	木	2

◆ 講義題目　インド哲学文献研究（2）

◆ 到達目標　インドの哲学思想の根本にある古代宗教書ヴェーダは祭式文献であるので，ヴェーダ祭式儀礼の概要を理解するとともに，古典サンスクリット語のもとにあるヴェーダ語の特質をも習得すること。。

◆ 授業内容・目的・方法

前期に引き続き，ソーマ祭中心部分の概要を理解するために，Frits Staal の大著 Agni 第 1 巻に収められた Agnicayana（祭火壇設置祭）実演記録のうち，最終日前日の夕刻から最終日早朝にかけてのソーマ献供儀礼と讃歌朗唱儀礼の部分を講読し，合わせてそこに引用された，Ṛgveda や Taittirīyasaṃhitā などのマントラ部分をも解読する。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は，コピーで配布する。辞書としては，まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい，更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド仏教史研究演習Ⅰ	2	教授	桜井宗信	1学期	火	3

◆ 講義題目　梵蔵漢対照による『倶舎論』の講読（1）

◆ 到達目標　基礎的仏典の読解力を向上させるとともに，重要な術語に関する正確な知識を習得する。

◆ 授業内容・目的・方法

Vasubandhu（世親）の著した『倶舎論』は，説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり，単に有部の思想を把握する上からのみならず，唯識派など大乗仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き，同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに，“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70 %］
（○）その他（授業中に示される理解度）［ 30 %］

◇ 教科書・参考書　用いる基本資料は次の通り：
・梵文原典：Abhidharmakośabhāṣya, ed.by P.Pradhan, Patna, 1967.
・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用 .
・漢訳：『阿毘達磨倶舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨倶舎釈論』（真諦訳）.
※『倶舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については，『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

授業科目	単位	担当教員		開講セメスター	曜日	講時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授	桜井宗信	2学期	火	3

◆ 講義題目　梵蔵漢対照による『倶舎論』の講読（2）

◆ 到達目標　基礎的仏典の読解力を向上させるとともに，重要な術語に関する正確な知識を習得する。

◆ 授業内容・目的・方法

Vasubandhu（世親）の著した『倶舎論』は，説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり，単に有部の思想を把握する上からのみならず，唯識派など大乗仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き，同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに，“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70 %］
（○）その他（授業中に示される理解度）［ 30 %］

◇ 教科書・参考書　用いる基本資料は次の通り：
・梵文原典：Abhidharmakośabhāṣya, ed.by P.Pradhan, Patna, 1967.
・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用 .
・漢訳：『阿毘達磨倶舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨倶舎釈論』（真諦訳）.
※『倶舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については，『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。